

別山

【日程】 2017年6月10日～6月11日

【エリア】 白山

【形態】 ハイキング

【メンバー】 K岡、I藤

【報告】 K岡

《ルート／タイム》

6月10日

奈良発（6：00）～一ノ瀬（11：10/11：30）～最後の水場～チブリ尾根避難小屋（16：30）

6月11日

避難小屋（5：10）～別山（7：15/7：30）～避難小屋（10：00）～一ノ瀬（15：30）

《報告》

二千メートルを越える山で登頂回数が一番多いのは白山の南のピークの別山（2400m）である。冬季以外にこの別山に、三つの登山基地から何回も登っているが、四つのルートの一つである別当出会から南竜馬場経由で北尾根を辿るルートだけ登る機会がなかった。今回は久しぶりに残雪期に一ノ瀬の登山口発でチブリ尾根からピークを踏み、下山は北尾根ルートで南竜山荘、甚之助避難小屋経由で別当出会いに着き徒歩で一ノ瀬へ戻る計画をたてた。

6月10日

一ノ瀬で昼飯を摂り予定通り昼前に歩き出した。そのころから心配していた雨脚がぼつぼつやってきた。ザックカバーと上着の合羽を早々に着ける。今日はチブリ避難小屋までの予定で 3.H50 のコースタイムである。ゆっくりと余裕をもって行けるが雨の程度が心配だ。雨脚は止まることなく降りだしてきたのでズボンもはいた。

このチブリ尾根の魅力は 1700m ぐらいの樹林帯の部分とそこから上部の展望のきく部分で大きく変わる。樹林帯で目を見張るのは根元の径が 2～3 メートルもある枒の樹、桂の樹とブナの大木や数の多さである。雨に打たれた大木が濃い緑色を呈して天を衝いて直立しているさまは、感動的でとても美しい。神々しいぐらいだ。低木も豊富で緑が鮮やかだ。秋には眩しいばかりの色とりどりの紅葉になる。登山道脇ではサンカヨウは萌黄色のおおきな葉っぱの真中に純白の小さな花卉を付けて咲いているのが可愛く爽やかである。三枚の幅広な葉の真中から緑紫色のつぼみをつけているエンレイソウはもう直ぐ咲きそうである。二輪草は最盛期を過ぎている。

駐車場で車の数に比べ下山してくる登山者がいない。途中一人の方に出会っただけである。この分だと今夜の避難小屋は貸切か超満員のどちらかだろうと冗談を言いながら雨の中を歩く。小屋手前約1キロの平坦な尾根筋から残雪が出てきた。時間も予定より掛かり雨で視界が余りよくなく雪渓でのルートが分かりにくい。時間的、距離的に、もう小屋に出くわすはずであったので進むのをやめ周囲を見渡して、はじめて小屋の南側の小さな谷に迷い込んでいて小屋を通りすぎていることに気づく。少し戻りルートを取り小屋に入りまさかの光景に吃驚。

小屋は超満員である。小屋の中は薄暗くロープを張りめぐらし雨具類がぶら下がっている。まさに、小屋の中はごったがえっていた。小屋の横にも4~5人用のテントが一張り。先客も雨の中を登ってきたのだろう。

「すみません、いま到着した者です。二人ですので少し詰めていただけませんか？」大声でお願いした。炊事の準備をしていた先客は自主的に快く二人には広すぎるスペースを空けてくれた。ロープを張り濡れたものを干すが、土間の靴のところやフロアーに雨具からの雫が落ちその対応に四苦八苦だ。

後の食事の時分かったことであるが、金沢大学のワンダーフォーゲルと医学部の学生の三パーティ、総勢21名が夏合宿の新人錬成登山に来ているのだ。錬成のため、水を余分に担ぎ一人当たり男性20キロ、女子15キロがノルマとか。若やいだ雰囲気の中、中高年二人はひっそりと泡盛で乾杯しながら、途中で仕入れた天ぷらなど食して早々とシュラフにもぐり込んだ。

6月11日

朝は、医学生グループが5時前に出発。天気は晴れ無風の好条件。寒くはないが一枚余分に着込み我々は5:10に出発。暫く進むと夏道は残雪に阻まれルートが分かり難い。その後も、所々、夏道一帯が広く雪渓に覆われて凍っている。アイゼンを装着して夏道と雪渓を何回か繰り返し別山尾根の北のピークの御舍利山に着く。雪渓が予想以上に多く予定より時間がかかった。しかし、ここまで来ると白山のなだらかな山容が指呼の間に見え疲れが吹っ飛ぶ。また、東側には御嶽から乗鞍岳、穂高連峰、更に槍が岳、立山、剣方面までの山稜が北へ流れている。そこから西へ尾根筋を進み大きな雪渓を越えて別山山頂に着いた。

何時ものように周囲の山々の山座同定の後、記念写真を撮り引き返す。

計画では御舍利山の分岐から南竜山荘へ降りる予定であったが、尾根筋の残雪が予想以上に多かったので安全のため来たルートをピストンして下山することにした。しかし、雪渓では登りと同じようにルートをフォローするのに何回か手間取った。

チブリ尾根のもう一つの魅力は樹林帯を過ぎてから北方向に雄大な白山が大きく見えることである。晴天に恵まれた今日は登りも下りもその景色をほしいままにたのしめた。避難小屋で一服して暫くして樹林帯に入り暑い太陽を遮るブナ、トチなどの大木の濃くなりつつある新緑の自然林を楽しみながら一ノ瀬に着く。白山温泉の古い木造の永井旅館の木船の温泉に浸かり二日間の疲れを癒しました。